

議会だより 新型コロナ対策と子育て支援、 教育を中心に一般質問をしました。



2021年9月議会は9月2日から10月1日まで行われました。一般的に会派の代表は予算議会の代表質疑をし、一般質問をする事が少ないのですが、今回は新型コロナ対策とライフワークであります子育て支援・教育を中心に一般質問をさせていただきました。以下のような項目と内容(一部)です。

紙面の関係でそれぞれの答弁についてはホームページでご覧いただくか、事務所までお問合せ下さいますようよろしくお願い致します。



(一般質問)

1 新型コロナ対策について

- 1) ワクチン接種については打つか打たないか本当にどちらがご本人にとってリスクが少ないか、客観的に判断する材料がもっと必要。コロナワクチンに関する情報を、さらにわかりやすく市民の皆様にお知らせすべきでは？
- 2) ワクチン接種ができない12歳未満の子ども達は発熱して病院受診しても微熱程度ではPCR検査をしていただけない病院もあり子どもの感染拡大を防ぐためには、PCR検査もしくは抗原検査をもっと活用して、積極的な検査すべきでは？

2 ハラスメント防止について

現在までの本市のハラスメント防止への取り組みについて伺うと共に、今後は数多くあるハラスメント問題を人権問題として本市人権行政指針に位置付け、市職員への更なる研修を行うことや、市政だよりや市民向け講座等市民へわかりやすく広報及び啓発を行ったり、相談窓口の設置など総合的な取り組みが必要ではないか？

3 ネット・ゲーム依存対策について

最近ではネット依存が疑われる中高生は約93万人にのぼるとも言われ、この5年でおよそ2倍に増加しているそうです。

令和元年にWHO世界保健機関において「ゲーム障害」が正式に疾病と認定され、「ゲームの使用をコントロールできない。」などの状況が12か月間以上続くことを「ゲーム障害」と定義され、射幸性が高いオンラインゲームには終わりがなく、大人より理性をつかさどる脳の働きが弱い子供が依存状態になると、大人の薬物依存と同様に抜

け出すことが困難になることが指摘されています。

iPhoneやiPadを出しているアップル社のスティーブ・ジョブズ氏は自分の10代の子どもにiPadを使ってよい時間を厳しく制限し、マイクロソフトのビルゲイツ氏も子供が14歳になるまでスマホは持たせなかったそうです。コロナ禍で不要不急の外出自粛で、家にいる機会が多い中、これまで以上に子供がネットゲームにはまって夜更かしし、昼夜逆転で学校にいけなかったり、遅刻したり授業中にずっと居眠りをしたりする児童生徒も多いと伺います。ゲーム依存がきっかけでひきこもりになるケースや親が注意しスマホ等を取り上げようとすると暴れるなど手がつけられないケースもあるようで親子関係が悪化するケースも増えています。学校でのICTも加速する中、合わせての視力の低下も危惧され、子供のオンラインゲーム課金トラブル相談件数も急増しています。

- 1) 本市において緊急事態宣言下などで小中学生のコロナ禍でのネット・ゲームの利用状況等について、学校の実態調査や子供への指導について？
- 2) 市民に対してネット・ゲーム依存に対する正しい知識や予防策等を普及啓発することや、相談支援体制を強化するなど、本市におけるネット・ゲーム依存症対策を総合的に推進すべきでは？

4 子育て支援について

- 1) 近年婚姻件数が減少し、コロナ禍でさらに結婚や妊娠を控える夫婦やカップルがふえ、昨年に増して今年も出生数は大幅に減少することが予想されています。本市における昨年の出生率の状況について？

- 2) コロナ禍での出産について、妊婦さんがコロナ感染した際の入院受け入れや、コロナ感染者の分娩または周産期医療の提供体制など、安全な出産体制が確保されているのか？
- 3) コロナの家庭内感染が増加する中で、もし家族が新型コロナウイルスに罹患した場合、同居する妊婦さんは優先的に隔離し妊婦さんの安全を配慮する体制がとれているのか？
- 4) コロナ禍で里帰り出産ができなくなったり、外出自粛で妊婦さんは何かと大変な思いをしたりストレスがたまり、産後うつなども心配されます。コロナ禍の大変な状況の中での出産をお祝いし、明るい気持ちになったり子育て支援につながるよう産後お手伝いのクーポンなどをお渡しできないか？

5 本市の教育のあり方について

- 1) 先日全国学力・学習状況調査の結果が発表され、本市は昨年より少し向上したものの、小学校の国語算数、中学校の国語数学のすべてで全国平均を下回る少し残念な結果となりました。教育長に今回の全国学力・学習状況調査結果についての見解を伺いました。
- 2) テストの点数を上げるためだけではなく本当の学力を身につける為に必要なことについて質問しました。

ドキュメンタリー映画「みんなの学校」で広く知られている大阪市立大空小学校初代校長木村泰子先生(障がいの有無に関わらず、すべての子どもが学び合い育ちあう教育に力を注ぎ、在任中には、いじめを受けて学校に行けなくなった子、発達障害と診断された子など支援の必要な子が50人を超え転入してきたがその間の不登校児はゼロでその上全国学力調査で全国1位の県の平均を上回ったこともある)が「10年後の社会では性別も人種も年齢などもこだわらず様々な人とかかわりながら生きていくことになる。そのために必要なキーワードは「多様性」「共生」「想定外」であり、これからの社会に必要な力は「人を大切にできる力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」で、それこそが子どもに必要な「見えない学力」であり、この見えない学力をつけると結果として「見える学力」が上がる。つまり子供たちが安心して学力を上げてい

く』と言われていて、私も大変共感しています。

また不登校の子の中にはHSC(Highly Sensitive Child)ひといちはい敏感な子)がいて、HSCは子供全体の15%から20%いると言われていて、生まれつきよく気がつき、深く考えてから行動します。共感性があり、聡明で直感が鋭く、創造性が豊かで、思慮深く慎重。一方大きな音や大量の情報にはすぐ圧倒され刺激を避けるので「臆病で引っ込み思案だから場に溶け込めない」と思われるそうで、私も実際に御相談を受け、先生が自分に対してでなくても大きな声を出すことが怖くて学校にいけないとの事でした。

その他障害やヤングケアラー、性の多様性や様々な家庭の問題も含め生きづらさを抱えた子供が多くいることを、先生が中心となりまわりがもっと理解し、その上で学校が子供にとって安心できる場所でなければ、子供は学校に行けなかったり学習意欲も高まらないのではないかと見解を尋ねました。

6 若松区におけるサル被害について

今年4月からサルの目撃情報が寄せられ、かまれるなど被害を受けた方が急増しています。これまでのサルの出没被害状況と今後の被害防止について尋ねました。

所属する特別委員会第2分科会でも多くの質問要望をしました。

1. 学校でのいじめ問題について
2. 修学旅行へ行けない生徒への配慮について
3. 障がい者スポーツの推進について
4. 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種後の副反応や後遺症の相談窓口の設置
5. 新型コロナウイルスの後遺症に関するリーフレットの作成について
6. 新型コロナウイルスで亡くなられた方のご家族に対する心のケアについて
7. 子供食堂における保存場所の支援について
8. 子育てしやすいまちのイメージの内外への発信について
9. 孤独な子育てにならないよう子育てを手伝う取り組みについて
10. 2021世界体操新体操選手権北九州大会について 他